

みなさんは、「吃音症について知ってる？」と聞かれたら「はい。」と答えられますか？

吃音症とは、「あ、あ、ありがとう。」や「・・・ありがとう。」のように言葉が詰まってしまったり、初めての音を何度も繰り返してしまったりしてうまく話せない発達障害のことを言います。

私は、目立ちたがり屋で発表したり、また友達などと話したりすることがとても大好きです。ですが大勢の前で何かをするとなると緊張して吃音が出てしまいます。普通の人からすればわざとやっているように見えたり、噛んでいるように見えたりして面白いかもしれないけど、自分自身からすれば言おうとしても言葉がのどを通らなくて練習のようにできなくてとても悔しく、恥ずかしくなります。

中学校に入ってからも「か行」がうまく話せなくて、先生にあいさつをする時「こんにちは」をすぐ言えなくて先生が通り過ぎてからやっと声に出せて言えます。激励会などで発表をするときも自分の名前をつっかえてしまったり、緊張しすぎて思い通りいかなかったりして、とても悲しかったです。でも同じ学校の友達などが励ましてくれたおかげで、ずっと引きずらずに前向きに学校生活を送れました。

中学校に入学してから吃音性が出てしまう人を何人か見かけたことがあります。そのうち一人は、友達に少し笑われていました。それを見て私は胸が痛くなりました。自分も小学生の時、笑われたりしたことがあったので、多分笑われた本人はとても嫌な思いをしたと思います。何かを言った人や相手をいじったりした人は、すぐ忘れて何もなかったようにしてしまうけど、笑われた方からしたら一生忘れることはありません。また、吃音は周りの人の対応によって症状が悪化したり、そんなにできなくなったりします。私の親友は、本を買って調べてくれて、吃音がでたりしたら優しく対応し、私が気にしないようにしてくれました。また、その親友とは、ずっと同じクラスで悪化せず安心して学校生活を送れています。また、気づけば相談できる人も増えていて、悩みを聞いてくれる大切さを実感しました。

ある日、本を読んでいた時、不思議な言葉がありました。その言葉、それは「吃音は個性」。初めは何を言っているのか、何を伝えたいのか全く分かりませんでした。考えてみれば治ることのない吃音性をプラスに考え、これから一緒に過ごしていくものと考えて個性として大切にしていって欲しいと、私にはそう感じました。筆者が何を伝えたかったのかは筆者には分かりませんが、自分にはそのように感じました。まだ相変わらず「か行」が苦手をつっかえてうまく自分の名前を滑らかに言えなかったり、国語の丸読みなどで緊張して詰まってしまったりしますが気にせず、これから何かみんなの前でしたり、代表をしたいなど思ったら「吃音は個性」なのだからと考え、ポジティブ思考で生活していきたいです。

